

雨竜沼湿原および登山道の維管束植物リスト 2020

雨竜町 佐々木 純一
札幌市 高橋 英樹

はじめに

雨竜沼湿原および湿原までの登山道に生育する維管束植物のリストを改訂した。「雨竜沼湿原の植物リスト」(高橋・佐々木 2002)に新たに確認した種類を追加する形で維管束植物リスト 2020 を作成した。調査範囲はゲートパーク南暑寒荘から白竜の滝周辺を含む登山道および雨竜沼湿原で、湿原展望台や南暑寒岳登山道区間は含まない。

植物リストの作成

高橋・佐々木 (2002) で、86 科 353 種(種内分類群を除く)を報告している。それ以後 2020 年までに新しく確認した生育種や文献情報を加え、今回 95 科 402 種の維管束植物をリストする。

シダ植物は高橋・佐々木 (2002) で 13 科 31 種をリストしたが、2002 年以降に新たに 15 種 1 雑種を確認した。これに武田 (2016) の報告から 2 種 6 雑種の文献情報も加えて、16 科 48 種 7 雑種を報告する。まとめに際しては梅沢 (2015) も参照している。

種子植物は 79 科 354 種 1 雑種を報告する。裸子植物として高橋・佐々木 (2002) が取り上げなかった 2 科 3 種を新たに加え、被子植物としては 77 科 351 種を確認し、これに Sato et al. (2015) の報告から 1 種の文献情報を加えた。

植物の分類体系については、原則としてシダ植物は海老原 (2016, 2017) に拠り、裸子植物と被子植物は大橋ほか (2015,

2016a, b, 2017a, b) に拠り、松井・高橋 (2015) と梅沢 (2018) も参照した。外来植物は五十嵐 (2015) に拠り、絶滅危惧植物は環境省レッドリスト 2020 に拠る (URL: <http://www.env.go.jp/press/107905.html>; 2021 年 12 月 15 日確認)。

高橋・佐々木 (2002) の植物リストに今回新たに追加した分類群に●印をつけた。証拠標本には佐々木の標本番号を付け、北海道大学総合博物館植物標本庫 (SAPS) に収めた。被子植物のうち、オトコエシ (スイカズラ科)、カラフトダイコンソウ (バラ科)、コナスビ (サクラソウ科)、オニノヤガラ (ラン科)、ミネハリイ (カヤツリグサ科)、ムカシヨモギ (キク科) など、標本番号を付していない種は現地での生育確認のみであり、証拠標本は採集していない。また、今回の調査では未確認のシダ植物は武田 (2016) の標本番号を引用し、オクエゾオニノガリヤスについては Sato et al. (2015) の SAPS 番号を付した。

新たな生育確認種と特記すべき植物

前回の報告 (高橋・佐々木 2002) で分類学的に課題が残った被子植物 2 種について、種を確定した。池塘に生育するオゼコウホネ (スイレン科) の、子房が赤味を帯び果実が特徴的に暗紅色になる個体について、全ての生育池塘個体群の継続調査で暗紅色果実は遺伝的に安定している事を確認して、オゼコウホネの 1 品種ウリュウコウホネ *Nuphar pumila* var. *ozeensis* f. *rubro-ovaria* と